

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 横田 綾子

1. 日 時 令和6年11月22日 第5時限 14:00～14:45
2. 場 所 第5学年1組教室
3. 学 年 ・ 組 第5学年1組(28名)
4. 単 元 名 「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」
教材文：「固有種が教えてくれること」今泉 忠明(光村図書)
「自然環境を守るために」
「統計資料の読み方」

5. 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。【(2)ア】 ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。【(3)オ】	・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【B 書くこと(1)エ】 ・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【C 読むこと(1)ウ】 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【C 読むこと(1)オ】 ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 【C 読むこと(1)ア】	・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

6. 本単元で取り組む言語活動

筆者の説明のしかたの工夫について、考えをまとめて話し合ったり、統計資料を根拠にして意見文を書いたりする。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。【(2)ア】 ②日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。【(3)オ】	①「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【B 書くこと(1)エ】 ②「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。【C 読むこと(1)ア】 ③「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている 【C 読むこと(1)ウ】 ④「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【C 読むこと(1)オ】	・粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

8. 指導にあたって

(1)児童観

本学級の児童は、第4学年までに筆者の考えや事例の挙げ方など、論の進め方に着目して説明文を学習してきた。初めと終わりに主張を書く「双括型」の構成を学び、文章のまとまりごとに中心となる語や文を見つけて要約するなどの活動を経験している。また、筆者の主張や書きぶり面に対しての自分の考えを書き表し、友だちと伝え合うことで、考えを広げ、深めてきた。

第5学年の最初の国語の授業で「国語は好き？」と尋ねると、数人しか挙手がなく、「算数は好き。」という答えが多く返ってきた。授業では、他者からの目を意識し、自分の意見を前に出すことをためらう姿がよく見られた。こちらの投げかけによく反応し、積極的に意見を述べる児童がいる反面、当てられると答えるけど、自分から挙手や発言、ノートに書いてみることはせず、だれかが言ってくれるのを待つなど、自信のなさや受け身な姿勢で学習する児童の多さに課題を感じていた。また、ふり返りを書く際も、簡単な感想のみで終わってしまい、理由や根拠、自らの経験をもとに詳しく説明したり、他者と自分の意見を比較したり、具体的な内容に触れて粘り強く考えて書いたりするという点でも、物足りなさを感じた。そこで、まずは「分からない」や「難しい」を言える雰囲気づくりを意識するとともに、授業はだれかが作ってくれるものではなく、自分が主役となって、仲間と協力して作っていくものであること、前向きに取り組む意味や大切さを何度も伝えてきた。また、身近な話題で意見文や反論文を書く活動を取り入れたり、ペアでの対話や、班での話し合い活動を意図的に増やしたりするなど、スモールステップで経験を

積み重ね、表現することへの抵抗感を減らせるよう努めてきた。特に国語科の学習では、言葉から考え、言葉で表現することの楽しさを感じてもらいたい。

1学期に学習した「見立てる」「言葉の意味がわかること」では、前年度までの説明文での学習を振り返った後、批評的に読むことを目標に、レビューを付ける活動から入った。自分の意見やその理由を引き出すことをねらいとして、「分かりやすさ」を観点の中心に、他者へのおすすめ度として、5段階中、星をいくつつけるか数値化させた。「言葉の意味がわかること」の最初のレビューでは、評価が低い児童が多く、交流の中で「事例の順序は適切だが、事例の多さや主張の言い換えが読み手を混乱させているのではないか。事例を減らし、もう少し簡潔に説明してみたい。」という意見にまとまり、ロイロノートで送った全文を活用し、よりよい事例の挙げ方を考える活動をそれぞれで行った。自分なりに納得できる説明に仕上げる児童、筆者の事例のよさや説明の工夫に気づき、最後のレビュー評価を初めより高くする児童が多く、読み手の立場と書き手の立場を行き来しながら取り組む大切さを実感することができた。また、友だちと交流しながらどの児童も生き生きと活動する姿が見られた。しかし、大事な部分まで削っていることに気づかず、内容を知っている自分たちなら分かるけど、初めて読む人には伝わらない内容になっていたり、外国の例と筆者の主張との繋がりを考えずに、外国語は難しいという理由だけで削ったりする姿もあり、他者意識を持ちながらねらいに沿って書かせる難しさを感じた。筆者の説明のよさとして「図があったから理解できた。」という発言や、資料の効果を挙げる児童が見られたため、本単元のねらいにもスムーズに繋げていけるのではないかと期待している。

本單元でも、レビュー評価を導入で扱う。全員が「分からない」を自然に表現でき、そこから全員で考え、作り上げていく授業を目指したい。また、社会科では産業や工業で様々な統計資料や写真等が用いられている。算数科でもグラフの特徴やかき方を学習する。それぞれの学習を各教科だけの学習に留ませぬよう、教科横断的に積み上げることを意識していきたい。

(2)教材観

「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、「書くこと」の教材「自然環境を守るために」で構成される複合單元である。指導の重点は、図表やグラフの扱い方にあり、特に気をつけたいグラフなどの読み取りについては、情報「統計資料の読み方」で取り上げる。図表と文章との対応を読み取ったり、それらの資料の効果を考えたりすることを通して、自分の表現にもいかすことが指導のねらいとなる。

「固有種が教えてくれること」の特徴は、地図、表、写真、グラフといった多様な資料を提示しながら筆者が主張を展開していることである。一つ一つの資料の意味や効果を、本文と対応させながら、全体の文脈の中で考えたい。こうして身につけた観点を「書くこと」にいかしていく。

児童にとって、「固有種」は初めて知る言葉であろう。しかし、筆者は「固有種」が日本の豊かで多様な自然環境の素晴らしさを伝えてくれる存在であることを、様々な説明の工夫を用いて伝えようとしている。こうした思いあふれる筆致は、児童の関心を引きつけ、日本列島の自然や動物についての新しい見方をもたらしてくれるはずである。

「自然環境を守るために」は、グラフや表を用いて自分の考えを裏付けながら、考えを述べる

文章を書く学習である。第一教材で学習した、資料を用いて自分の考えに説得力を持たせる文章の書き方をいかし、自分の力で文章を書かせることに取り組ませたい。本教材では、環境問題が提示されており、自ら選択して調べたことをもとに、自分の考えをまとめていく。自然環境に対する見方や考え方を広げることができたり、友達の考えを知ることによってさらに理解を深めたりすることもできる。

(3)指導観

本単元では、「資料を効果的に用いた意見文を書くこと」を目標に学習を行う。そこで、単元の最初に、資料を除いた文章だけにしたものを児童に配付する。生き物の姿はもちろん、時代の移り変わり方やイギリスの位置や国土の特徴、数の推移など、子どもたちにとっては想像しにくいものばかりであり、言葉だけで本文を読み解いていくことは、かなりの困難さを感じる事が予想される。この「分からない」をきっかけに、学習活動を展開させていく。それぞれの意見や感想、疑問を共有した後、全体の「問い」を立て、分かりやすく伝えるために効果的な資料を考えることへ、学習を方向付ける。(作戦会議)

第二次では、資料のない全文をロイロノートで送り、「自分だったらこの段落には、こんな資料があると良いと思う」という考えを書き込んでいく。この考えは、あくまでも教科書の資料を予想することが狙いではなく、自分なりの根拠を持って考えることに重点を置く。「グラフで、このような変化が分かるもの」「〇〇の写真があればいい」程度で構わない。筆者の書いた文章を完成されたものとして受け身な姿勢で読み取るのではなく、自分だったらと考えることで、資料のある本文を読んだ際に、こんな使い方はどうか、もっとこんな資料が必要ではないかと、資料の効果について、進んで自分の考えを構築することができるのではと考えた。

意見の交流の場として、机を寄せ集め、段落ごとに相談しやすいよう場所を設ける。その意図としては、必要だと感じる児童同士が頭を寄せ集め、対話しやすいようにと考えた。もしかすると、自分が必要だと感じたところに誰も集まらない可能性もある。そうした場合、自分の考えを再度見直すきっかけになるだろう。逆に一部の箇所には多くの児童が集まることも考えられる。そうした場合、筆者の主張には、この本文の説明だけでは不十分であり、資料で補強することでより説得力が増すということにも気付けるのではないかと考える。

次に、教科書の資料のある本文を読んでいく。資料のある場合とない場合を比較することによって、資料の大切さや効果がより明確になると思われる。また筆者と児童の考えたものとずれが生じる箇所が出てくることが考えられる。筆者はなぜこの段落にこの資料を持ってきたのかという疑問を持ち、それを解決していこうと主体的に取り組むと思われる。また、筆者が資料を入れていないところに児童の考えの書き込みが集まった場合は、書き手と読み手の両方の立場から、資料の必要性を考えなければならないという気付きに繋がられる。比較検討する際は、単純に本文に沿っているからという理由や、見栄えが良いからという理由だけで考えないように注意する。必要だと考えた資料の対応する文章が筆者と合致しているのか、合致しているのであれば両者の資料の共通点・差異点に着目し、より有効な資料はどちらかを、理由を添えて考えるように指導する。また、考えた資料の対応する文章が筆者と合致しない場合、筆者の主張を支える文章としてどちらの方が有意であるかを考えた上で、資料の必要性を考えさせるようにしたい。ま

た、資料の挿入だけでなく、「この資料が無かったらどうか。」「どの資料が必須なもので、どの資料が補足的なものか。」など考えることで、児童が主体的に資料の効果を検討する姿勢に繋がたいと考える。こうした経験を積み重ねることで、多面的な読み方ができるようになり、自分や友だちの意見文を推敲するときにいきてくると思われる。第三次でどのような意見文を書くべきなのか、児童が自分なりに、考えをもてるようにしていきたい。

第三次では、意見文を作成する。第二次で学習した「図表などの効果を考えて用いることで、伝えたいことを分かりやすく示したり、説得力をもって伝えたりすることができる」ということをいかし、自分が書きたい環境問題を選択し、自分の意見を統計資料を用いて書く。①目的に合った図表やグラフを選ぶこと。②資料と文章を対応させて書くこと。③資料から分かることと主張とを分けて書くことを児童が意識できるように指導したい。意見文を書いたり、友だちの意見文を読んだりする際は、改めて書き手と読み手の両方の見方・考え方を働かせることで、助言の言葉や受け入れ方の幅も広がると思われる。

9. 単元の指導と評価の計画（全 13 時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	3	・既習の説明文の学習を振り返る。 ・本文（資料なし）を通読し、筆者の主張や文章のおおまかな構成を捉える。 ・感想を書く。（レビュー） ・感想を交流して、資料活用の効果に着目したクラスの「問い」を作り、作戦会議をする。【本時】	○ ○	○ ○ ○	○	
2	6	・「中」の内容を整理し、文章構成を捉える。 ・文章をより分かりやすくするために必要な資料（ツール）を考える。 ・自分が効果的だと考える資料（ツール）について全体で交流する。	○ ○	○ ◎ ○	○	・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。〈ノート〉【思・判・表③】

		・本文で提示されている資料と、本文の対応箇所を押さえ、資料活用の効果について考える。 ・筆者の資料と自分達の考えたものを比較検討する。 ・文章の要旨を150字以内でまとめ、批評文を書く。(レビュー)	○	○		
			○	◎		・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。〈ノート〉【思・判・表③】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。〈ノート〉【思・判・表②】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【思・判・表④】
3	4	・自分が書きたいテーマを選び、統計資料を用いた意見文を書く。 ・意見文を交流し、感想を伝え合う。	◎	◎	◎	・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。【知・技②】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。〈レポート〉【知・技①】 ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。〈レポート〉【思・判・表①】 ・粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用

						いた意見文を書こうとしている。 〈レポート〉【主】
--	--	--	--	--	--	------------------------------

10. 本時の展開(3/13 時間目)

(1) 本時の目標

初発の感想から問い（学習課題）を設定するために、考えを伝え合うことができる。

(2) 本時の評価規準

学習課題を設定するために、自分の考えを伝え、学習の見通しがもてている。【思・判・表③】

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 前時の学習を振り返る。	・ 前時の学習と本時の学習を繋ぐ。	
2. 本時のめあてをつかむ。		
感想を交流し、学習の作戦会議をしよう。		
3. 前時に書いたレビューを交流する。 ・ ペアで伝え合う。 ・ 全体で交流する。 （ ☆何個で評価したのか。 分かりにくいところを中心に交流する。）	・ 自分の考えを明確にし、他者の意見と比較できるよう、☆の数も発表させる。 ・ 筆者の主張に納得できたか、分かりにくかったところなどの理由を中心に、黒板で意見を整理していく。 ・ 図表や写真など、資料の必要性に目を向けさせていく。	・ 必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 【思・判・表③】 （行動観察・発言）
4. より分かりやすくするためにどうしていくかを考え、問い（学習課題）をつくる。	・ なぜそこが分からないのか、どうすればより分かりやすくなるのかを問う。 ・ 必要に応じて近くの人と対話してよいことを伝える。	
5. 次時の方向性を決め、本時のふり返しを書く。		

(4) 本時における具体的な児童の状況（※本時の評価基準に関わる場面において）

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
理由や根拠をもとに自分の考えを伝えるとともに、今後の学習の見通しをもつことができる。	なぜそう思ったのか、どこからそう感じたのかを聞き取ったり、他者の意見と比較させたりしながら自分の考えや見通しをもてるように支援する。